令和五年度（二〇二三年度）工芸史研究会活動報告　二〇二四年五月二十日　工芸史研究会運営委員会

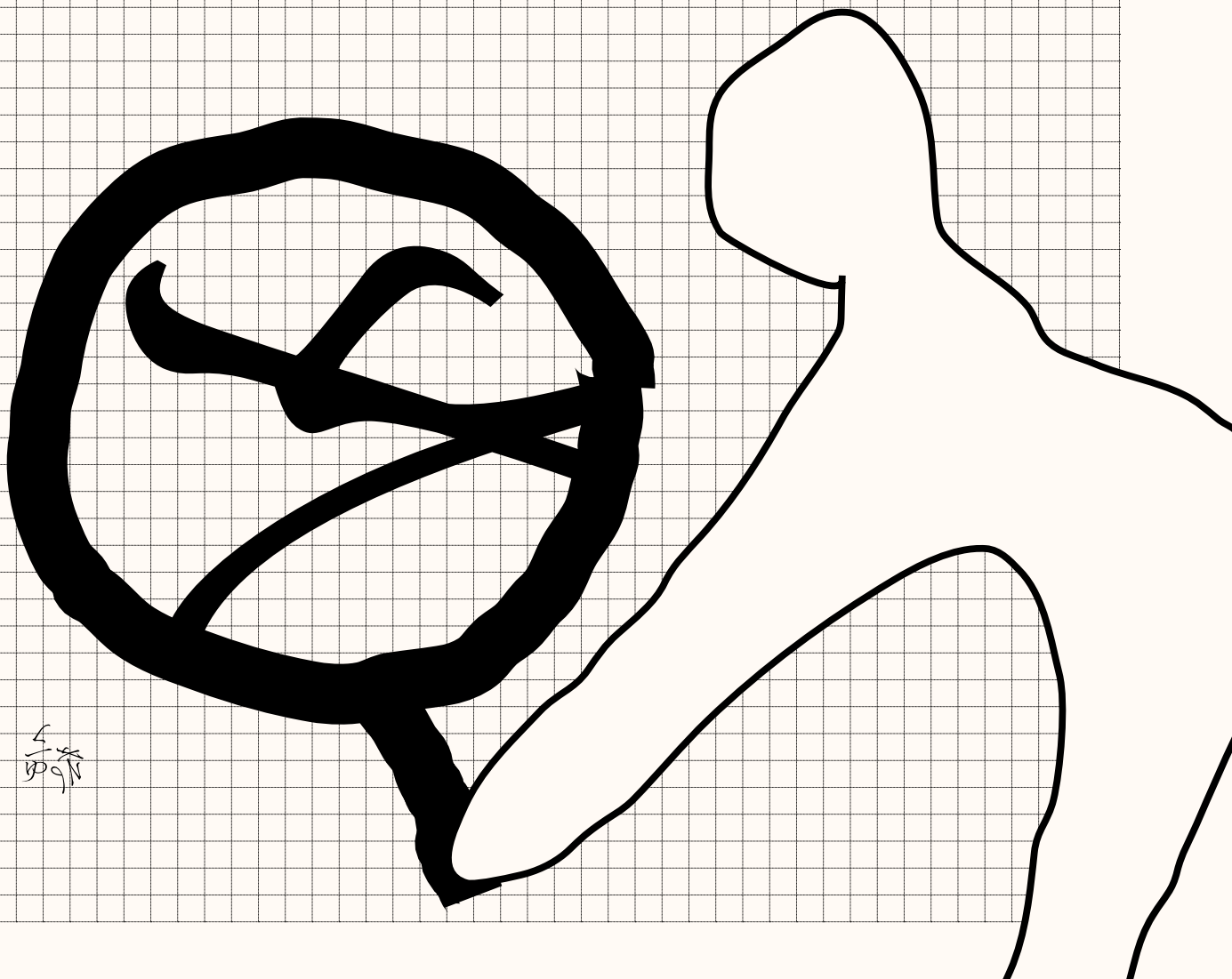
工芸史研究会

令和五年度（二〇二三年度）

活動報告

1、活動報告
2、今年度の要改善点および来年度の目標
3、年間活動記録
4、収支報告

工芸史研究会



令和５年度（2023年度）
工芸史研究会活動報告
2024年5月20日
工芸史研究会運営委員会

工芸史研究会（以下「本研究会」）は、設立３年目となる令和５年度、以下の活動を行った。

１、活動報告

今年度は講演会１回、研究会１回、部会１回を開催した。創立３年目を記念して、東京藝術大学教授（当時）、佐藤道信氏の講演会を開催し、会員内外から38名が参加した。研究会、部会に関しては、会員自身が続けてきた研究・調査の経過報告や、展覧会の準備を通した調査研究の共有であり、質疑応答では各分野から活発な意見交換が行われた。研究発表は、さまざまな地域に住む会員の参加を促すため、引き続きオンラインでの開催を基本とした。
さらに今年度は、新たな事業として機関誌『工芸史』を創刊した。講演会の記録、会員の活動の記録を主とし、柔軟な研究発表の場の整備を進めることができた。
フライヤー、ウェブサイト等を用いた会員の勧誘を進め、2024年４月現在、会員数は49名である。
詳細は以下に述べる。

（ア）研究会

〔第１回〕
- 題目：「**豊田勝秋《鋳銅花壷麗しき草の成長》に見る工芸観**
  －東京高等工芸学校時代におけるアーツ・アンド・クラフツの影響について－」
- 発表者：神野有紗（千葉県立美術館）
- 日時：2024年2月22日（木）　19時30分～
- 会場：オンライン開催（Zoomにて開催）
- 概要：近代金工のモダニズム運動を牽引した一人である豊田勝秋（1897-1972）の東京高等工芸学校教員時代の制作活動とウィリアム・モリスの思想の影響について、千葉県立美術館所蔵の《鋳銅花壷麗しき草の成長》（1924年）を通して考察した。本発表は、千葉県立美術館で開催の企画展「アーツ・アンド・クラフツとデザイン―ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで―」（1月30日～3月24日）に関連して発行する論考集、『千葉とアーツ・アンド・クラフツ』所収の「豊田勝秋《鋳銅花壷麗しき草の成長》に見る工芸観－東京高等工芸学校時代におけるアーツ・アンド・クラフツの影響について－」に基づく。

（イ）部会

会員主体でより気軽に研究経過の発表、意見交換を行なうことを目的とし、会員の発案により部会の区分を設けた。

〔第１回〕
- 題目：「**ポーラ美術振興財団助成 藤本能道制作関連資料調査 －保存と活用を考える－**」
- 発表者：橋詰果歩（福井県陶芸館）
- 日時：2024年10月29日（日）19：30～
- 会場：オンライン開催（Zoomにて開催）
- 概要：発表者は、共同研究者と共に藤本能道工房および青梅市立美術館が所蔵する資料を調査し、重要無形文化財「色絵磁器」保持者・藤本能道の制作に関連するテストピース823点、素描2149枚、未完成品26点に対し保存環境の改善、記録作業を行った。これら資料群の今後の保存、活用を模索するにあたり、本研究会で資料紹介を兼ねた意見交換会を開催した。近現代工芸作家の制作関連資料の保全やアーカイブに関して、参加者間で情報共有を行うことができた。

（ウ）講演会

工芸史研究会　特別講演
- 講演者：佐藤道信 氏（東京藝術大学美術学部芸術学科教授）
- 題目：近現代における「工芸」の展開
- 日時：2023年5月13日（土）19:30～21:00　※オンライン開催
- 概要：登壇者は、東京藝術大学美術学部芸術学科で教鞭を取られ、日本近現代美術史における制度論のご研究を第一線で進めてこられました。本講演では、概念・制度・機構の観点から「工芸」の成立と展開について、新しいご知見を交えつつ、ご講演を頂きました。

（ェ）機関誌について

昨年度より準備を進めていた機関誌『工芸史』を創刊した。来年度以降も継続的な刊行を目指す。

【機関誌概要】

創刊号は、論考（研究ノート）や調査報告、研究史、作家会員の作品を掲載した。今号はあえて査読制度をとらず、工芸史に関わる多分野の若手の研究や動向をタイムリーに発表、記録できる場を目指した。会員のほか、一般書店、美術館博物館、図書館、大学等へ配本した。

・編集：工芸史研究会（編集委員会：廣谷、泉山、橋詰、金昭延）
・発行：南方書局（富澤大輔）
・デザイン：明津設計（浅田農）
・題字：柯輝煌
・印刷：加藤文明社（PD：平井彰）
・発行部数：500部
・判型：B5変形
・発行日：令和6年3月31日（配本は4月中旬）
・発刊目的：（1）当会の活動記録をアーカイブし、会員の発表の場をつくる
（2）工芸研究の総合誌として、分野を跨ぎ知見・研究動向を共有する

○内容　研究会憲章
活動記録
●会員作品　畑中咲輝（陶芸）
●第一部　これからの「工芸」
佐藤道信　「近現代における「工芸」の展開」
水本和美　「考古学と美術工芸史研究」
●第二部
神野有紗　「澤部清五郎原画《春郊鷹狩》《秋庭観楓》の制作に関する一考察
――浅井忠原画《綴織壁飾　狩の図（武士山狩）》制作過程との比較をめぐって」
高家融　「清朝工芸における「丸文」の受容と展開―天啓赤絵と清朝宮廷コレクションを視座として―」
巖由季子　「〈調査報告〉江戸時代中後期における陶磁器補修の事例」
廣谷妃夏　「〈研究史〉中国「経錦」研究の百年」
●付録：「工芸」関連展覧会年表（関東編、2008～2023）

2、今年度の要改善点および来年度の目標

○ 機関誌の刊行

・創刊号の編集に際して結果的に特定の編集委員に会務が集中したため、今後持続可能な編集会務の形を検討する。

○ 研究会の運営方法の改善

・昨年度の反省を踏まえ、アンケートフォームの導入を行ったものの、毎月の募集告知を目標としたとおりに進めることができず、会員の研究発表の促進に至らなかった。今年度は、定期的な告知を行ない、申請方法の認知を進める。
・昨年度まで不確定だったオンライン会議ツールに関して、会員数の増加によってZoom有料版を導入することができた。

○ 運営委員会における会務の効率化

・ボランティアによる運営である以上、運営委員会の会務に過度な負担感が生まれないようにすることは喫緊の課題である。会務の適切な振り分けを行い、運営に関わる会務を属人化しないツールの導入を促進する。

○ 作家会員の拡充

・フライヤーの配布や機関誌の広報、研究会活動の周知を行い、作家会員の拡充を行う。

○ 工芸関連の学術情報共有の活発化

・LINEオープンチャットを主として、展覧会、シンポジウム等、工芸に関する情報を積極的に共有し、引き続き会員同士も発信しやすい雰囲気作りを行なう。

3、年間活動記録

2023年
- 4月 8日 運営委員会 MT（機関紙の進行について）
- 4月 21日 運営委員会 MT（2023年度の予定、会計、会務の割振りについて）
- 5月 8日 運営委員会 MT（講演会、会費納入状況、研究会の促進、2022年度の活動報告について）
- 5月 13日 **【特別講演会】**
- 5月 21日 運営委員会 MT（運営委員の呼称、国外からの送金、アンケートフォームについて）
- 6月 18日 運営委員会 MT（講演会の振り返り、会計について）
- 7月 2日 運営委員会 MT（機関誌の会員原稿の確認、研究会文責の原稿の執筆、スケジュールについて）
- 7月 7日 運営委員会 MT（機関誌の進行について）
- 8月 12日 『工芸史』編集会議（機関誌の進行、業務の割り振り、デザイン案について）
- 10月 29日 **【第1回部会】**
- 11月 29日 運営委員会 MT（機関誌の発行について、来年度の研究会について）

2024年
- 2月 22日 **【第1回研究会】**
- 3月 31日 機関誌『工芸史』発刊

4、収支報告

収入の部			
	前年度繰越分		97,500
	会費（計47名） ※3/31時点での未納分は除外 ※翌期分の前受会費を含む	学生会員（6名）	10,500
		普通会員（28名）	87,000
収入計			145,170
支出の部			
	委託費	・機関誌書籍設計 ・活動報告書 ・各種広報画像 ・WEB サイト運営	77,660
	通信運搬費	Zoom 年会費	22,110
支出計			99,770
差引収支			70,230

2023年度工芸史研究会運営委員
廣谷妃夏、橋詰果歩、泉山真悠、光武晴香、金昭延、金慧周、青木つづり、吉田倫、納多由紀乃